

訪問先大学・機関及び調査協力先大学の概要

◆スウェーデン

①ウプサラ大学

ウプサラにある、1477年に設立された北欧最古の国立大学。
ノーベル賞受賞者、政治家、事業家などを多数輩出している。
Times Higher Education「THE世界大学ランキング2018」86位
URL：<https://www.uu.se/en/>

②SUHF (The Association of Swedish Higher Education Institutions)

ストックホルムに本部がある、スウェーデン内の大学学長会議。
「行政リーダーシッププログラム」等、各種ワーキンググループを実施している。
URL：<http://www.suhf.se/inenglish>

③スウェーデン王立工科大学

ストックホルムにある、1827年に設立された理工系総合大学。
スウェーデン国内の工科大学では最大規模を誇る。
Times Higher Education「THE世界大学ランキング2018」173位
URL：<http://www.kth.se/eng/>

◆2か国目：英国

①AUA (the Association of University Administrators)

2005年からJUAMと連携協定を結んでいる英国大学職員団体。
マンチェスターに本部を設置している。
URL：<https://aua.ac.uk/>

②AHUA (Association of Heads of University Administrators)

マンチェスターに本部を設置している、英国大学の上級職員団体。
URL：<https://ahua.ac.uk/>

③マンチェスター大学

マンチェスターにあり、元々はマンチェスター工科大学として1824年に設立され、
2004年から現在のマンチェスター大学となる。多数のノーベル賞受賞者を輩出している
イギリスならびに世界の研究を先導する教育機関。
Times Higher Education「THE世界大学ランキング2018」54位
URL：<http://www.manchester.ac.uk/>

※調査協力先（今回訪問なし）

ミュンヘン工科大学

ドイツのミュンヘンにあり、1868年設立。
多数のノーベル賞受賞者を輩出しているドイツ国内屈指の工科大学。
Times Higher Education「THE世界大学ランキング2018」41位
URL：<https://www.tum.de/>

現地の写真一覧

スウェーデン



ウプサラ大学の職員と記念撮影



ウプサラ大学 メインビルディングのホール



スウェーデン王立工科大学 メイン図書館



ストックホルム市庁舎内での記念撮影



スウェーデン王立工科大学 建物最上階にて



スウェーデン王立工科大学 キャンパス

イギリス



マンチェスター大学にて



マンチェスター大学 ラーニングコモンズの説明



マンチェスター博物館 ティラノザウルスの化石



マンチェスター大学 ラーニングコモンズの壁画



同ラーニングコモンズ 仮眠スペース



若手海外調査メンバー

大学行政管理学会 創立 20 周年記念事業「若手海外派遣事業—海外大学調査研修—」

渡 航 計 画 書

平成 29 年 12 月 21 日 提出

メンバー	氏名 (所属大学)	リーダー 橋本 規孝 (立命館大学) 伊井 卓生 (名古屋工業大学) 橋本 昌紀 (名城大学) 高木田 翼 (東京電機大学) 森 康介 (名城大学)
研修テーマ	モビリティとモチベーションの関係性	
訪問希望先 (予定)	国名：イギリス、ドイツ、スウェーデン、オランダ	
渡航日程 (予定)	2018 年 9 月 16 日～9 月 23 日 (8 日間)	

はじめに

今回の渡航先が欧州と設定された中で、今後の **JUAM** の連携先となり得るような組織・団体及び各自の調査テーマに即した大学の概要調査を行いました。その中で、我々 5 名は、各々の持つ調査テーマを生かしつつも、チーム単位の一つの共通テーマ (=研修テーマ) を設定し、以下に記すとおり、研修計画及び渡航計画をまとめました。

研修テーマは、「モビリティとモチベーションの関係性」とし、欧州大学間で展開されている **Erasmus+** を軸とした戦略的取り組み等について、現地での基礎調査を実施することとします。

なお、**Erasmus+** では、アウトカムズの一つに“職員の日々の業務におけるモチベーションと満足度の増加”が挙げられているため、これに関する欧州内の複数の国、大学・団体の取り組みを比較検討したいと考えています。

1. 研修計画全体 (概要)

上記研修テーマにおいて、訪問先との (今後の関係の構築含む) 適切な意思疎通、実りのある現地での基礎調査を行うため、訪問国の教育/高等教育制度及び訪問先の大学・団体の情報を収集し、訪問にあたっての基礎知識を習得します。

また、研修テーマに関連する日本の大学 (設置形態の分類含む) の現状と課題について、事前調査を行い、その調査結果をまとめ、訪問先の大学・団体に予め提示する予定です。

これらの準備を踏まえて、訪問先の担当者等へのインタビュー調査を行い、日本と欧州の大学における比較検討 (定量的・定性的) に役立てたいと考えています。

今回の調査研修では、特定の国や大学・団体に限定せず、欧州内の複数の国、大学・団体を廻ることで、各々の文化、歴史的背景等を踏まえた欧州の大学の特徴をより正確に把握できるものと考えています。

訪問先候補は、世界トップレベルに位置する大学の取り組みを参考にするため、**THE (Times Higher Education) 世界大学ランキング 2018** において 1 位から 200 位にランクインする大学、研修テーマ及び各メンバーの調査テーマに沿った大学、メンバー所属大学の協定校等の中から選別するとともに、**JUAM** の将来連携先となり得るような組織・団体についても検討し、次のとおりとしました。

イギリス：1～2大学及び1団体

(※候補：シェフィールド大学、バッキンガム大学、マンチェスター大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、レスター大学、Association of University Administrators)

ドイツ：1～2大学及び1団体

(※候補：ゲッティンゲン大学、ベルリン自由大学、ミュンヘン工科大学、ヨーロッパ大学、German Rector's Conference)

スウェーデン：1～2大学及び1団体

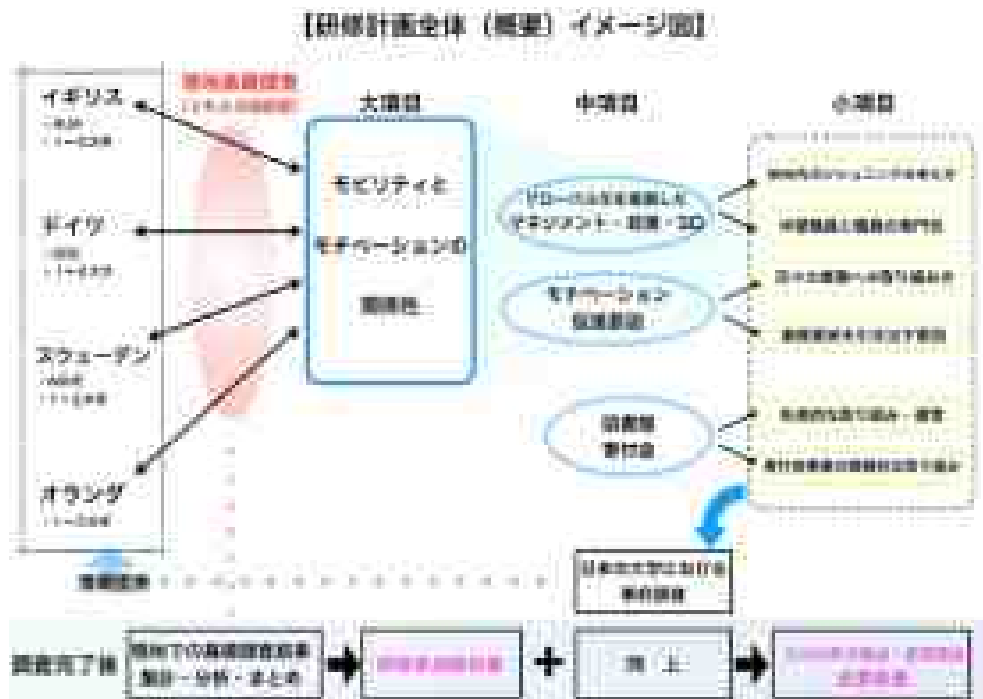
(※候補：ウプサラ大学、ルンド大学、Association of Swedish Higher Education)

オランダ：1～2大学

(※候補：アムステルダム自由大学、マーストリヒト大学、ライデン大学)

※今後の折衝が不調に終わることも考慮し、実際の訪問数を上回る候補先を挙げています。

調査計画全体（概要）のイメージ図は、次のとおりです。



2. 現地での基礎調査の実施計画

先に挙げた国、大学・団体において、より具体的な調査事項を設定し、これに適した職員等を対象としたインタビュー調査を実施するとともに、予め事前調査結果を提供することから、これに関連した各種データの意見交換等（各メンバーの調査テーマ含む）も実施したいと考えています。

また、インタビューのみならず、図書館をはじめとした施設・設備の見学を通して、その国々、大学等の文化に触れることも重要であると考えています。

そのうえで、研修後のJUAM研究集会・総会における報告をも踏まえ、できる限り会員諸氏への有効なフィードバックを行うため、国ごとの教育制度の違いや各大学の独自性のみならず、日本との共通的な大学運営に関するシステム及び制度等についても、足を運んで獲得する生きた情報を持ち帰って来たいと考えています。

現時点で候補に挙げた大学・団体の選別の理由は、次のとおりです。

(1) 大学

2018年4月に **International Staff Training Week 2018** を開催する大学や、自大学の職員をこの取り組みに積極的に派遣する大学、70カ国及び600を超える大学と協定を持つ大学、分野に特化（工学系）した多くのコンソーシアムを持つ大学、特徴ある図書館及び運営システムを有する大学、学生満足度が高く欧州では希少な私立大学等、研修テーマと各メンバーの調査テーマに即した大学を候補としました。

(2) JUAM の連携先となり得るような団体

国際的な高等教育機関間の協力体制を活動目的としている **German's Rector's Conference**、組織としての高等教育や職員と事務局との関係、海外の類似団体との連携活動を行っている **Association of Swedish Higher Education** を候補としました。

(3) イギリスAUA (**Association of University Administrators**)

イギリスの大学における現状と課題について、**Chair** または **Vice Chair** を直接訪問したうえで、我々が掲げる研修テーマも含めて、イギリスの大学職員が直面している現状や課題、それに対するAUAの取り組み等を調査します。

3. 渡航日程等

「2. 現地での基礎調査の実施計画」に鑑み、現実的には3カ国程度、同数以上の大学及び団体を訪問対象としています。

また、中欧（オランダ、ドイツ）のみならず、ブリテン諸島（イギリス）及び近年その先進的な教育制度で注目を集めている北欧（スウェーデン）への訪問も予定していることから、一部の日程で各自の研修テーマに基づく別行動や、「5. その他」で触れるとおり、渡航期間の取り扱いについてご検討いただければ幸いです。

なお、対象先の大学は、ターム制またはセメスター制により、9月下旬より学期開始となる学事日程に鑑み、次のとおり現時点での渡航日程等を計画します。

【渡航日程】

2018（平成30）年9月16日～23日（予定）（8日間）

【現地スケジュール】

1日目（移動日）

2～3日目 1カ国目 現地1、2大学及び団体への訪問

4～6日目 2カ国目 現地1、2大学及び団体への訪問

7～8日目 3カ国目 現地1、2大学及び団体への訪問、帰国

4. 渡航に向けた準備（事前調査）スケジュール

今後については、本渡航計画に関するJUAM国際委員会での忌憚のないご意見等を踏まえ、次のスケジュールで、事前調査及び渡航に向けた訪問先との折衝を順次進めていく予定です。

また、事前調査の計画にあたっては、原案策定後、JUAMの関連する委員会等の確認を経て、建設的なご意見をいただき、適宜ブラッシュアップしていきたいと考えています。

概略スケジュールは、次のとおりです。

【概略スケジュール（予定）※一部実施済み】

- | | | | |
|---|-------------------|--------|--|
| ① | 平成29年11月23日 | 第1回打合せ | 調査テーマ及び計画のアウトライン（於：名城大学） |
| ② | 平成29年12月9日 | 第2回打合せ | 調査報告、共通テーマ・渡航計画案（於：立命館大学） |
| ③ | 平成29年12月17日 | 第3回打合せ | 渡航計画書（案）の確認（於：インターネット会議） |
| ④ | 平成30年1月 | 第4回打合せ | 事前調査計画の概要案策定（その1） |
| ⑤ | 平成30年2月～3月 | 第5回打合せ | 事前調査計画の実施案策定（その2）
JUAM関係委員会等へ付議（予定） |
| ⑥ | 平成30年4月～5月 | 第6回打合せ | 事前調査の実施、訪問候補との折衝開始 |
| ⑦ | 平成30年6月～7月 | 第7回打合せ | 事前調査結果のまとめ
訪問先の決定・事前調査結果の提供 |
| ⑧ | 平成30年8月 | 第8回打合せ | 旅程の詳細案検討
現地基礎調査当日の進め方（質問等含む）確認 |
| ⑨ | 平成30年9月 | 第9回打合せ | 渡航計画全般の最終確認 |
| ⑩ | 平成30年9月17日～25日 | | 渡航・現地での基礎調査実施 |
| ⑪ | 平成31年1月末まで | | 研修参加報告書をJUAM国際委員会に提出 |
| ⑫ | 平成31年9月または平成32年9月 | | JUAM年次集会・研究総会にて成果発表 |

5. その他

上記のとおり、本調査研修にあたっては、欧州内で調査対象に偏りが生じないように、複数国の訪問を通し、俯瞰的に欧州の大学・団体を捉えることで、より研修成果が高まるものと考えております。

また、今後の訪問先候補の大学・団体との折衝においては、一部で不調に終わることも想定しており、場合によっては、渡航日程等の一部見直しに迫られることも考えられます。

そのため、渡航期間については、可能な限り数日間の延長等を前向きにご検討いただきたくお願い申し上げます。

なお、渡航期間の延長が可能となることで、本研修内容の充実度が増すことと、メンバーにおける止むを得ない業務都合等での調整（遅れての合流・切り上げ帰国等）においても、遺漏なき対応が図れるものと考えています。

以 上